

劇団きづがわ第 69 回公演
第 42 回大阪新劇フェスティバル参加

東の風が 吹くとき

あの日変わってしまった故郷 それでも老夫婦は生きる この地で

作・高木 進
演出・林田時夫

とき：12月13日（土）PM2:00&PM7:00
14日（日）PM2:00

ところ：リバティーおおさか

（JR 環状線 / 芦原橋駅下車南へ 600m）

入場料：前売り一般 3,000 円
学・障・シニア（65 才）2,500 円
夫婦 5,000 円

（当日券はいずれも 1 人 500 円 UP）

◇ 観劇に際し劇団へのご予約をお願いします。

劇団きづがわ第69回公演
(第42回大阪新劇フェスティバル)

東の風が吹くとき

『東の風が吹くとき』

福島に風は吹く。福島に花が咲く。
福島は故郷です。福島は人生です。
福島に生きる。福島を生きる。

この物語は「東日本大震災」のあった5日後、2011年3月16日の夕方から始まる。

福島第一原子力発電所から40キロ離れた農村の一隅。
そこで慎ましく暮らしてきた3世代にわたる酪農一家。

だが、放射能汚染によって生きる術を断たれた、息子夫婦や、孫娘夫婦と幼子は、それぞれに村を棄て新たな地へと離散して行く……。

あの日から変わってしまった故郷。それでも老夫婦は生きる。この地で……。

これは原発事故発生後のドラマではない。

生まれ育った土地を愛し、自然と共に生き、お互いを慈しむ。そんな老夫婦の愛のものがたりである。

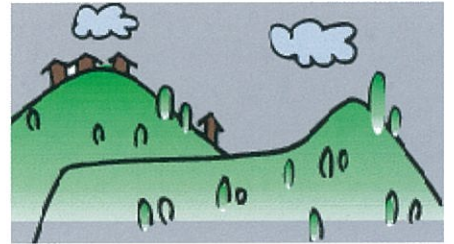
『東の風が吹くとき』は、劇団青年座の劇作・演出家である高木達（こおる）さんが、震災を機に故郷・いわき市に帰り、いわきの演劇を愛する仲間たちと共に創造した『福島に生きる』感動のドラマである。

その公演は昨年、地元・いわき市に止まらず、東京公演も行われ、多くの人々に深い共感を呼んだ。

東日本大震災と福島原発事故の悲劇から3年半――。

劇団きづがわが、「福島に生きる、福島を生きる」人々のドラマに挑みます。

（冒頭の一節は、同じく福島在住の詩人・和合亮一さんの詩「決意」から引用させていただきました。）



《キャスト》

佐藤倉治（73才／酪農と農業）	山本惣一郎
佐藤ムメ（その妻／70才）	和田 雅子
佐藤正勝（次男／48才）	中屋 光雄
薫（その妻／46才）	西尾 純子
菜花春恵（長女／25才）	林田 彩
輝夫（その夫／27才）	寺島 由浩
咲子（その娘／5才）	山本 碧愛
江頭一歩（隣の脱サラ酪農家）	島本 拓治
大沼 卓（福島新報記者）	山田 一己
鈴木瞳（村役場畜産課職員）	橋野 悦子
佐藤喜一（同男性職員）	青埜 充裕（劇団息吹）
鯨岡芳明（精密部品経営者）	坂口 勉（ST企画）

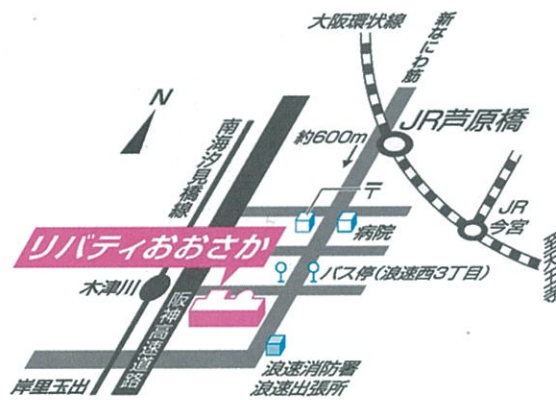
（原発近辺の町から避難してきた人たち）

《スタッフ》

作／高木 達
演出／林田時夫
同補／山田一己
美術／和田雅子
装置／三村省三（神戸ドラマ館レロ）
照明／新田二郎（フリー）
音楽／石若雅弥（フリー）
効果／田坪文一（劇団せすん）
道具／河原正隆
舞監／小森健司（フリー）
同補／北尾利晴（フリー）
製作／和田雅子
池田広美
箱崎八子
福露光司
椎名千浪



リバティおおさか略図



リバティおおさか（大阪人権博物館）
〒556-0026 大阪市浪速区浪速西 3-6-36
TEL:06(6561)5891（代表） FAX:06(6561)5995



（ご予約は下記の電話までお願いします。）

東風だ……

3月には東風が吹くよ、

様々な草花が芽吹き始めるころね、この村はね……

いつか、あの日の夜ね……